

# 幼稚園教師の研修についての意識調査 ～研修ニーズ, 困り感, 必要とする力に焦点をあてて～

Awareness Survey on Training for Kindergarten Teachers  
～ Focusing on Training Needs, Difficulties and Kindergarten Teacher's Qualities ～

内河 水穂子\* 伊藤 道雄\*\*

**要旨** 本研究では、幼稚園教師の研修の充実に向けて、幼稚園教師のより詳細な研修に関する意識を把握するために、予備調査として、幼稚園教師に質問紙調査を行い、幼稚園教師の研修についての意向や内容、方法について検討した。その結果、幼稚園教師は、園内において、上司の指導助言や教師間の相談、他の教師の指導をみることによる研修に効果を感じニーズも高いことがわかった。その中で、幼稚園教師の多くが、障害等により配慮を必要とする子どもの支援について困り感を感じ、研修ニーズも高いことがわかった。また、幼稚園教師は、子どもを大切にすることや教師や保護者との連携を必要な力と考え、人や人間関係を大切にできる姿勢が強いことがわかった。そして、幼稚園教師の研修ニーズと困り感や必要とする力の関連性については、今後の研究課題である。

【キーワード：幼稚園教師 研修 意識調査】

## 1. はじめに

令和2年5月26日に、幼児教育の実践の質向上に関する検討会から、報告された「幼児教育の質の向上について（中間報告）」では、平成18年の教育基本法の改正の際、幼児教育については、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであることが規定され、幼児教育の質の向上について、幼児教育に携わる者の全てが協力し、取り組んでいくことが必要であると示された。そして、幼児教育の質の向上の実現に向けて、6つの柱建てに沿って、具体的方策が提言された。その方策の1つに、研修の充実等による資質の向上が挙げられており、各研修の位置付けを構造化し、効果的な研修を実施することや、各職階・役割に応じた研修体系構築、キャリアステージ毎の研修機会確保、女性のライフステージに合わせた研修プログラムの提供、研究機関等が幼児教育についての情報提供を行うこと、ICTを活用した研修教材等の開発、等が例示されている。

幼児教育の研修状況については、2020年に国立教育政策研究所より報告された「OECD国際幼児教育・保育従事者調査2018第2巻」によれば、

参加国のほとんどの園で、新人保育者や、園に着任したばかりの経験ある保育者を支援する初任者研修プログラムが実施されており、日本では、「園内での研修（メンタリング）」が95.3%、次いで「子供のポートフォリオ、日誌、記録の作成」が94.7%と高い割合でプログラムに含まれており、その割合は参加国中で最も高かった。また、「園長・所長や経験豊富な同僚との話合いの設定」は87.6%、「経験豊富な保育者とのチームによる保育」は86.6%、「園長・所長や経験豊富な同僚による監督指導」は、83.5%と、これらも高い割合で日本の園の研修プログラムに含まれていた。

一方、日本の園では、「オンラインでの活動（例：オンラインでの意見交換会）」は6.1%であり、プログラムに含まれている割合は、ドイツの4.2%に次いで2番目に低かった。

中橋・橋本（2016）によれば、幼稚園の研修担当者を対象とした調査において、園内研修を行っているのは83%、園内研修を行っていないのは12.6%であり、行っていない最も多い理由は、研修時間の確保ができないというものであった。また、園内研修では、教材研究・技能向上に関する

\* さいたま市立ひまわり特別支援学校

\*\* 子ども学科 元特任教授

研修が最も多く、半数以上の園で、事例研修等と複数のタイプの研修を実施していた。さらに、研修担当者が望ましいと考える研修は、意見を出し合えるような研修が32.1%で、最も多かった。

このようなことから、多くの園で、園内研修や、園内職員の協働による研修が行われているが、ICTを活用した研修はあまり行われていないことがわかる。

また、寅丸・西川・濱田(2010)では、幼稚園教師に回答を求めた調査において、幼稚園教師が必要と考える資質能力については、子どもが好きであることが89.7%と最も高く、次いで、子ども一人ひとりの個性を大切にする(84.6%)、子どもの目線に立ってコミュニケーションがとれる(84.6%)、自らの資質や能力を高めようとする(83.1%)であった。さらに、その資質能力をどこで身につけるべきかについては、教師になってからが最も多く、次いで、短大・専門学校が多かった。幼稚園教師は、子どもを大切にすることやコミュニケーションがとれることを大切に考え、短大・専門学校や教師になってからの場で、それらを高めていることが伺える。このことから、短大・専門学校で指導することも大切であるが、教師になった後の研修についても充実していく必要があると言える。

一方、西坂(2006)は、幼稚園教師のストレスについての研究において、相談や研修の機能が充実している等の専門的成長が助長される環境は、職場環境ストレスや保育実践ストレスを軽減する可能性が示唆されている。このことから、研修や相談できる場合は、ストレス軽減にも役立つと考えられる。

加えて、「幼児教育の質の向上について(中間報告)」では、幼児教育の内容・方法の改善・充実について、障害のある幼児等特別な配慮を必要とする幼児への支援が示されている。吉川・尾崎・細渕(2008)は、幼稚園教師を対象に軽度発達障害についての質問紙調査を行った。その結果、88%が、気になる子どもの保育で悩んだことがあると回答した。また、自閉症やADHDについては、知識としてある程度認識しているものの、保育者がもっと勉強しなければいけないと思うという指摘が目立った。軽度発達障害の研修で望んでいることは、現在の問題解決方法、保育実践、専門的

知識の3項目が上位を占めた。このことから、新たな教育内容や、困り感から研修ニーズを把握することも必要であると考えられる。

これらの先行研究等から、幼稚園教師の研修の重要性と概要については概ね示されているが、より詳細な内容は明らかになっていない。さらに、幼稚園教師の研修については、幼稚園教師自身の困り感や、主体的に学ぼうとする意欲を大切にすることが必要であると考えられる。加えて、「幼児教育の質の向上について(中間報告)」において示された小学校教育との円滑な接続の推進や特別な配慮を必要とする幼児への支援、ICTの活用についての考えを把握する必要があると考えられる。

そこで、本研究では、幼稚園教師の研修の充実に向けて、幼稚園教師のより詳細な研修に関する意識を把握するために、予備調査として、幼稚園教師に質問紙調査を行い、幼稚園教師の研修についての意向や内容、方法について検討することを目的とする。

## II. 方法

### 1. 対象者と調査時期

A県内の幼稚園3園(私立2園・公立1園)の幼稚園教師42名を対象とし、20XX年10月～20XX+1年2月に調査を実施した。

### 2. 方法

質問紙調査(95項目)を実施し、Excel統計を用いて分析を行った。

### 3. 調査内容

以下の(1)から(5)について、調査を実施した。(2)から(5)については、1. 当てはまる、2. どちらかと言えば当てはまる、3. どちらかと言えば当てはまらない、4. 当てはまらない、の4件法で回答を得た。

#### (1) 本人の属性

ア性別、イ年齢、ウ幼稚園教師経験年数

#### (2) 効果的であった研修や学び

#### (3) 幼稚園教師としての困り感

#### (4) 幼稚園教師として必要な力

#### (5) これから取り組みたい研修や学び

質問項目の作成にあたっては、研修内容に関するものは、「幼児教育の質の向上について(中間報告)」で示された質の向上のための具体的方策を参考にして、幼稚園教育に必要なと思われる項目を

独自作成した。また、研修方法に関するものは、「OECD 国際幼児教育・保育従事者調査 2018 第 2 巻」を参考にして、独自作成した。さらに、幼稚園教師として必要と考える力については、寅丸・西川・濱田（2010）を参考にして、「子どもが好きであること」、「子どもの個性を大切にすること」、「子どもとコミュニケーションをとること」、「自らの資質能力を高めようとする」、「保護者と相談すること」、「幼稚園教師として情熱・使命感があること」、「幅広い教養がある」の 7 項目を作成し加えた。困り感については、質問項目とした研修内容についての困り感を問う項目を独自作成した。なお、本調査においては、研修については、受けた時期を特定していない。

### Ⅲ. 結果

#### 1. 回答者の属性

3 歳児～5 歳児の学級を担当する幼稚園教師 42 人から回答を得た（有効回答率 100%）。回答者の属性は、女性が 100%であり、年齢は、20～29 歳が 40.5%，30～39 歳が 21.4%，40～49 歳が 28.6%，50 歳以上が 9.5%であった。幼稚園教師経験年数は、1～9 年が 47.6%，10～19 年が 28.6%，20～29 年が 19%で、30 年以上が 4.8%であった。

表 1 幼稚園教師の力量を高めるために効果的であった研修や学び (N=42)

	回数	どちらか と書え ば	どちらか と書え ば	どちらか と書え ば	どちらか と書え ば
1 大学・短期大学・専門学校の授業は、効果的であった。	42	54.8%	42.9%	2.4%	0.0%
2 初任者研修（採用1年目の研修）は、効果的であった。	37	48.6%	43.2%	2.7%	5.4%
3 幼稚園内での研修会は、効果的であった。	36	44.4%	52.8%	2.8%	0.0%
4 幼稚園内での事例検討会は、効果的であった。	30	46.7%	50.0%	3.3%	0.0%
5 教師間で相談することは、効果的であった。	42	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
6 上司に指導助言を受けることは、効果的であった。	42	92.9%	7.1%	0.0%	0.0%
7 他の教師を指導を見ることは、効果的であった。	38	89.5%	7.9%	0.0%	2.6%
8 他の幼稚園の指導を参観することは、効果的であった。	32	62.5%	37.5%	0.0%	0.0%
9 大学教員等の外部講師による研修会は、効果的であった。	30	43.3%	53.3%	3.3%	0.0%
10 巡回相談・指導の助言を受けることは、効果的であった。	36	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%
11 関係機関との連携やケース会議は、効果的であった。	30	53.3%	43.3%	3.3%	0.0%
12 外部の研修（幼稚園外の研修）に参加することは、効果的であった。	36	38.9%	58.3%	2.8%	0.0%
13 書籍等を読むことは、効果的であった。	40	30.0%	65.0%	5.0%	0.0%
14 保護者と相談することは、効果的であった。	41	58.5%	41.5%	0.0%	0.0%
15 授業についての研修は、効果的であった。	32	40.6%	59.4%	0.0%	0.0%
16 教材研究についての研修は、効果的であった。	33	42.4%	57.6%	0.0%	0.0%
17 相談スキルについての研修は、効果的であった。	28	35.7%	57.1%	7.1%	0.0%
18 特別支援教育についての研修は、効果的であった。	31	54.8%	38.7%	6.5%	0.0%
19 掲示物等教室環境整備についての研修は、効果的であった。	26	42.3%	53.8%	3.8%	0.0%
20 小学校との連携についての研修は、効果的であった。	28	39.3%	60.7%	0.0%	0.0%
21 指導計画等作成についての研修は、効果的であった。	33	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
22 ITスキルやその活用についての研修は、効果的であった。	25	32.0%	64.0%	4.0%	0.0%
23 児童虐待や家庭支援についての研修は、効果的であった。	30	46.7%	50.0%	3.3%	0.0%
24 配慮を要する子ども事例検討は、効果的であった。	33	66.7%	30.3%	3.0%	0.0%
25 関係機関との連携方法についての研修は、効果的であった。	27	48.1%	44.4%	7.4%	0.0%
26 教師のストレスマネジメントについての研修は、効果的であった。	28	28.6%	60.7%	10.7%	0.0%
27 国や自治体の動向についての研修は、効果的であった。	24	29.2%	54.2%	16.7%	0.0%
28 子どもとのコミュニケーションについての研修は、効果的であった。	31	51.6%	48.4%	0.0%	0.0%

#### 2. 効果的であった研修や学び

幼稚園教師の力量を高めるために効果的であった研修や学びについての結果を表 1 に示す。効果

的であったものとしては、「上司に指導助言を受けること」が当てはまる 92.9%と最も高く、次いで、「他の教師の指導を見ること」が当てはまる 89.5%、「教師間で相談すること」が当てはまる 83.3%、であった。質問全体では、2つの質問「教師のストレスマネジメントの研修」と「国や自治体の動向の研修」を除いて、当てはまるとどちらかと言えば当てはまるを合わせて、90%以上となり、肯定的な回答であった。また、質問ごとの回答数にばらつきが見られ、N=42 の内、n=30 未満の設問は、6 問あった。その質問は、「相談スキルの研修」、「特別支援教育の研修」、「掲示物等教室環境整備の研修」、「ICT スキルと活用の研修」、「関係機関との連携の研修」、「教師のストレスマネジメントの研修」、「国や自治体の動向の研修」であった。

#### 3. 幼稚園教師としての困り感

幼稚園教師としての困り感についての結果を表 2 に示す。困り感が高かったものについては、「問題行動のある子どもの支援」が当てはまる 26.2%、どちらかと言えば当てはまる 38.1%となり、「障害のある子どもの支援」が当てはまる 23.1%、どちらかと言えば当てはまる 35.9%となり、半数以上が困り感を感じている結果となった。さらに、「ICT のスキルや活用」については、当てはまるが、13.5%と 3 番目に高かった。また、「保護者に就学相談をすすめること」については、当てはまるは 7.9%であったが、どちらかと言えば当てはまるは 42.1%となり、50%が困り感を感じている結果となった。

一方、困り感の低いものについては、「子どもとのコミュニケーション」が当てはまらない 57.1%、「掲示物等教室環境整備」が当てはまらない 47.6%、「新しい幼稚園教育」が 39.5%であった。また、当てはまらないとどちらかと言えば当てはまらないを合わせて、90%以上となったものは、「子どもとのコミュニケーション」、「新しい幼稚園教育」であった。

表2 幼稚園教師としての困り感 (N=42)

	n	どちらか		どちらか	
		当てはまる	と書え	と書え	当てはまらない
1 授業をすることに、困り感がある。	38	0.0%	26.3%	34.2%	39.5%
2 子どもとのコミュニケーションに、困り感がある。	42	0.0%	7.1%	35.7%	57.1%
3 指導計画等の作成に、困り感がある。	40	2.5%	17.5%	47.5%	32.5%
4 掲示物等教室環境整備に、困り感がある。	42	0.0%	16.7%	35.7%	47.6%
5 障害のある子どもの支援に、困り感がある。	39	23.1%	35.9%	33.3%	7.7%
6 問題行動のある子どもの支援に、困り感がある。	42	26.2%	38.1%	31.0%	4.8%
7 保護者との相談に、困り感がある。	41	4.9%	24.4%	51.2%	19.5%
8 保護者に就学相談をすすめることに、困り感がある。	38	7.9%	42.1%	31.6%	18.4%
9 児童虐待等の支援に、困り感がある。	32	0.0%	31.3%	46.9%	21.9%
10 小学校との連携に、困り感がある。	35	0.0%	17.1%	51.4%	31.4%
11 保健・福祉の関係機関の連携に、困り感がある。	34	0.0%	17.6%	55.9%	26.5%
12 ICTスキルや活用について、困り感がある。	37	13.5%	21.6%	40.5%	24.3%
13 教師間の連携に、困り感がある。	40	5.0%	17.5%	40.0%	37.5%
14 仕事上のストレスに、困り感がある。	41	7.3%	17.1%	41.5%	34.1%
15 新しい幼稚園教育がわからず、困り感がある。	38	0.0%	2.6%	57.9%	39.5%

#### 4. 幼稚園教師として必要な力

幼稚園教師として必要と考える力についての結果を表3に示す。全ての質問において、当てはまるとどちらかと言えば当てはまるを合わせて90%以上となり。肯定的な回答であった。その内、「子どもとコミュニケーションをとること」が当てはまる100%、「教師間で連携すること」が当てはまる97.6%、「子どもの個性を大切にすること」が当てはまる97.6%と高い結果となった。

表3 幼稚園教師として必要と考える力 (N=42)

	n	どちらか		どちらか	
		当てはまる	と書え	と書え	当てはまらない
1 よい授業をすること	40	57.5%	37.5%	5.0%	0.0%
2 子どもとコミュニケーションをとること	42	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3 指導計画等の作成すること	42	57.1%	40.5%	0.0%	2.4%
4 掲示物等教室環境整備すること	42	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%
5 障害のある子どもを支援すること	42	78.6%	21.4%	0.0%	0.0%
6 問題行動のある子どもを支援すること	42	81.0%	19.0%	0.0%	0.0%
7 保護者と相談すること	42	88.1%	11.9%	0.0%	0.0%
8 保護者に就学相談をすすめること	39	43.6%	53.8%	2.6%	0.0%
9 児童虐待等を支援すること	41	73.2%	24.4%	2.4%	0.0%
10 小学校と連携すること	42	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%
11 保健・福祉の関係機関と連携すること	42	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
12 ICTスキルや活用すること	39	41.0%	56.4%	2.6%	0.0%
13 教師間で連携すること	42	97.6%	2.4%	0.0%	0.0%
14 仕事上のストレスを解消すること	41	80.5%	17.1%	2.4%	0.0%
15 新しい幼稚園教育を理解すること	42	69.0%	31.0%	0.0%	0.0%
16 子どもが好きであること	42	90.5%	7.1%	2.4%	0.0%
17 子どもを個性を大切にすること	42	97.6%	2.4%	0.0%	0.0%
18 自らの資能力を高めようとする	42	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
19 幼稚園教師としての情熱、使命感があること	42	81.0%	19.0%	0.0%	0.0%
20 幅広い教養があること	42	73.8%	26.2%	0.0%	0.0%

表4 幼稚園教師の力量を高めるために取り組みたい研修や学び (N=42)

	n	どちらか		どちらか	
		当てはまる	と書え	と書え	当てはまらない
1 幼稚園内での研修会	39	28.2%	51.3%	17.9%	2.6%
2 幼稚園内での事例検討会	41	39.0%	46.3%	12.2%	2.4%
3 教師間で相談すること	42	85.7%	11.9%	2.4%	0.0%
4 上司に指導助言を受けること	42	78.6%	21.4%	0.0%	0.0%
5 他の教師を指導を見ること	39	74.4%	23.1%	2.6%	0.0%
6 他の幼稚園の指導を参観すること	42	59.5%	33.3%	7.1%	0.0%
7 大学教員等の外部講師による研修会	38	28.9%	50.0%	18.4%	2.6%
8 巡回相談・指導の助言を受けること	40	57.5%	30.0%	10.0%	2.5%
9 関係機関との連携やケース会議	40	37.5%	45.0%	15.0%	2.5%
10 外部の研修(幼稚園外の研修)に参加すること	39	25.6%	51.3%	17.9%	5.1%
11 書籍等を読むこと	42	23.8%	61.9%	11.9%	2.4%
12 保護者と相談すること	40	65.0%	30.0%	5.0%	0.0%
13 授業についての研修	40	45.0%	40.0%	15.0%	0.0%
14 教材研究についての研修	40	45.0%	47.5%	7.5%	0.0%
15 相談スキルについての研修	40	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%
16 特別支援教育についての研修	39	56.4%	33.3%	10.3%	0.0%
17 掲示物等教室環境整備についての研修	38	28.9%	55.3%	15.8%	0.0%
18 小学校との連携についての研修	39	38.5%	46.2%	15.4%	0.0%
19 指導計画等作成についての研修	40	32.5%	50.0%	15.0%	2.5%
20 ICTスキルやその活用についての研修	40	27.5%	55.0%	15.0%	2.5%
21 児童虐待や家庭支援についての研修	40	47.5%	45.0%	7.5%	0.0%
22 配慮を要する子どもの事例検討	40	65.0%	25.0%	10.0%	0.0%
23 関係機関との連携方法についての研修	40	37.5%	45.0%	15.0%	2.5%
24 教師のストレスマネジメントについての研修	38	21.1%	52.6%	21.1%	5.3%

25 国や自治体の動向についての研修	38	21.1%	50.0%	21.1%	7.9%
26 子どもとのコミュニケーションについての研修	39	48.7%	41.0%	7.7%	2.6%
27 最新の幼稚園教育についての研修	40	52.5%	32.5%	12.5%	2.5%
28 通信教育で学ぶこと	39	10.3%	38.5%	41.0%	10.3%
29 YouTube等の動画で学ぶこと	39	15.4%	46.2%	28.2%	10.3%

#### 5. これから取り組みたい研修や学び

幼稚園教師の力量を高めるために、取り組みたい研修や学びについての結果を表4に示す。取り組みたい研修や学びについては、「教師間での相談」が当てはまる85.7%、「上司に指導助言を受ける」が当てはまる78.6%、「他の教師の指導を見る」が当てはまる74.4%、「保護者と相談する」が当てはまる65.0%、「配慮を要する子どもの事例検討」が当てはまる65.0%、「特別支援教育の研修」が当てはまる56.4%、「最新の幼稚園教育の研修」が当てはまる52.5%となり、高い回答となった。さらに、当てはまるとどちらかと言えば当てはまるを合わせて、90%以上となったものは、「教師間での相談」、「上司の指導助言を受ける」、「他の教師の指導を見る」、「他の幼稚園の指導の参観」、「保護者と相談」、「教材研究」、「相談スキルの研修」、「児童虐待や家庭支援の研修」、「配慮を要する子どもの事例検討」、であった。

一方、当てはまらないとどちらかと言えば当てはまらないを合わせた否定的な回答が多かったものは、「通信教育で学ぶこと」が51.3%、「YouTube等の動画で学ぶこと」が38.5%であった。

#### 6. 年代及び幼稚園教師経験年数との相関

回答者の年代及び幼稚園教師経験年数と質問項目の相関を計算した。その結果、回答者の年代と質問項目の相関係数rは.39から-.44となった。

「困り感：授業をすることの困り感」がr=.39, 「必要とする力：小学校と連携する」がr=.39となり、中程度の相関が見られ、「困り感：ICTスキルと活用」はr=-.44となり中程度の負の相関が見られた。幼稚園教師経験年数と質問項目の相関係数rは,.49から-.49となった。「必要とする力：小学校と連携する」がr=.49となり、中程度の相関が見られ、「困り感：ICTスキルと活用」はr=-.49となり中程度の負の相関が見られた。また、回答者の年代と幼稚園教師経験年数の相関はr=.91と強い相関が見られた。

#### IV. 考察

幼稚園教師は、研修や学びの効果において、全ての項目に肯定的な回答であったが、特に、上司の指導助言や他の教師の指導を見ること、教師間の相談が効果的であると回答している。このことから、幼稚園においては、幼稚園教師は、園内の教育活動の中で上司の指導助言を受け、教師間で相談し合うことで、力量を向上させていると考える。そして、上司の指導助言、他の教師の指導を見ること、教師間の相談は、これから取り組みたい研修においても高い肯定的な回答が得られ、研修ニーズも高いことがわかった。幼稚園教師の研修は、園内の教育活動の中で学ぶことが中心となっており、それが効果を上げていると考える。

一方で、効果的であった研修や学びについての各項目の回答数にばらつきが見られ、 $n=30$  未満の設問は、6問あった。このことから、回答数の少ない項目である「相談スキルの研修」、「特別支援教育の研修」、「掲示物等教室環境整備の研修」、「ICTスキルと活用の研修」、「関係機関との連携の研修」、「教師のストレスマネジメントの研修」、「国や自治体の動向の研修」は、研修経験がなく、無回答になったとことが推測される。今回の調査では、経験の有無について調査していないため、様々な研修経験についての状況は、今後の課題である。

幼稚園教師が考える必要な力については、子どもとのコミュニケーションや子どもの個性を大切にすることや子どもが好きであることに高い回答が見られ、子どもを大切に意識が高いと言える。さらに、教師間の連携や保護者との相談にも高い回答が得られ、教師や保護者との関わりや連携も大切にしていると言える。このことから、幼稚園教師は、子どもや人との関係を大切に意識が高いと言える。これは、寅丸ら（2010）と同様の結果であった。加えて、自ら資質能力を高めようとすることや情熱や使命感については、当てはまる、どちらかと言えば当てはまるという肯定的な回答が100%であり、幼稚園教師は意欲や使命感をもって取り組んでいることがわかった。

また、幼稚園教師の困り感については、「問題行動のある子どもの支援」、「障害のある子どもの支援」について、半数以上が困り感を感じている結果となった。そして、取り組みたい研修としても、

「保護者との相談」、「配慮を要する子どもの事例検討」、「特別支援教育の研修」、「児童虐待や家庭支援の研修」、「相談スキルの研修」に高い回答が得られた。そして、幼稚園教師は、「保護者との相談」を取り組みたい学びの1つとして考えていることがわかった。子ども理解のために、保護者から学ぼうとする姿勢は、大変重要であると考えられる。

さらに、新しい幼稚園教育については、困り感はないものの、必要な力としては、肯定的回答が100%であり、最新の幼稚園教育の研修について、85%が取り組みたいに肯定的な回答であった。ICTのスキルや活用と小学校との連携についても、困り感はないが、必要な力として考えており、約80%が取り組みたいに肯定的な回答であった。

なお、ICTのスキルや活用の困り感には、年代と幼稚園経験年数の負の相関が見られ、小学校との連携を必要とする力には、年代と幼稚園経験年数の正の相関が見られた。年代と幼稚園経験年数には強い正の相関があるため、ICTのスキルや活用は年齢が若いほど困り感がなく、小学校との連携は年齢が高いほど必要と考えていると言える。

そして、幼稚園教師の仕事上のストレスによる困り感は顕著ではなかったが、ストレスマネジメント研修の効果や必要性、研修ニーズは、肯定的な回答が得られており、幼稚園教師はストレスマネジメントの重要性を理解していると考えられる。

幼稚園教師が取り組みたいと考える研修は、今回の質問の中では、通信教育や動画で学ぶこと以外の全ての項目で、肯定的な回答が得られ、幼稚園教師は研修意欲が高いと言える。幼稚園教師の研修を充実するためには、幼稚園教師の研修意欲やニーズを高めていくことが大切であるため、今後は、幼稚園教師の研修ニーズと困り感や必要と考える力との関連を検討する必要があると考える。

#### V. 結論

幼稚園教師の研修の中心は、園内の教育活動の中で、上司の指導助言や他の教師の指導をみること、教師間の相談によって行われ、幼稚園教師は効果を感じ、研修ニーズも高いことがわかった。また、幼稚園教師の多くが、障害等により配慮を必要とする子どもの支援について困り感を感じていた。そして、研修ニーズも障害等により配慮を

必要とする子どもの支援に関するものが高かった。しかし、関連性は、本研究では明確にできず、今後の研究課題である。

また、幼稚園教師は、子どもを大切にすることや教師や保護者との連携を必要な力と考え、人や人間関係を大切にすることを強く意識していることがわかった。

今後の課題としては、今回の調査では、幼稚園教師の研修経験が明らかでなかったため、それを明らかにする必要があると考える。さらに、幼稚園教師の研修の充実に向けて、この予備調査をもとに、質問紙についても検討を行ったうえで、調査対象者を増やして、幼稚園教師の研修ニーズと困り感や必要と考える力等との関連性について研究していくことが必要であると言える。そして、「幼児教育の質の向上について（中間報告）」を踏まえ、幼稚園教師の研修を充実させていくための方策を明らかにし、幼稚園教師の資質向上に努めたい。

## 謝辞

お忙しい中、本調査にご協力をいただいた幼稚園の皆様には、深く感謝申し上げます。

## 引用文献

- 1) 中橋美穂・橋本祐子(2016) 幼稚園における園内研修の実態に関する研究：研修担当教員への質問紙調査から。教育学論究, 8, 157 - 164.
- 2) 寅丸尚恵・西川正晃・濱田格子(2010) 幼稚園教師に求められる資質能力—幼稚園本調査の結果分析。教育総合研究業書, 3, 17 - 40.
- 3) 西坂小百合(2006) 幼稚園教師のストレスと精神的健康に及ぼす職場環境、精神的回復力の影響。立教女学院短期大学紀要, 38, 91 - 99.
- 4) 吉川はる奈・尾崎啓子・細渕富夫(2008) 幼稚園教諭を対象にした保育現場における軽度発達障害の意識調査に関する研究。埼玉大学紀要 教育学部, 57 (1), 159 - 165.
- 5) 幼児教育の実践の質向上に関する検討会(2020) 幼児教育の質の向上について(中間報告)。
- 6) 国立教育政策研究所(2020) OECD 国際幼児

## 幼稚園教師の研修についての意識調査

本調査は、幼稚園教師を対象としていて、幼稚園教師の研修についての意識について、予備調査することを目的としています。

以下の留意事項をお読みいただき、対象者であって、調査にご協力いただける場合は、質問項目にご回答ください。本調査の回答をもって、調査にご同意いただいたこととさせていただきます。

### 【留意事項】

- ・この調査への参加は強制されるものではありません。回答の可否はご本人の意思で自由に決めていただけます。
- ・答えたくない質問がある場合には、その質問を飛ばして次の質問に移ってください。
- ・回答を途中でやめなくなった場合は、すぐにやめていただいてもかまいません。
- ・回答しなかったり、回答を途中でやめたりしても、いかなる不利益を生じません。
- ・この調査は、無記名で（お名前を書かずに）お答えいただけますので、個人情報が入ることはありません。
- ・今回ご協力をいただくこの調査結果は、研究目的のみに使用され、統計的に処理され、研究紀要等や学会で発表されます。
- ・個人の回答がそのままの形で公開されることはありません。
- ・回答の処理からデータ保管と処分まで、回答は厳重に保護されます。

### 【記入の仕方】

- ・（○はひとつだけ）と書いてある質問では、あてはまる答えに1つだけ○をつけてください。
- ・最もあてはまるものに○をしてくださいでは、当てはまる答えに1つだけ○をつけてください。

この研究は、回答者の皆様に不利益がないよう万全の注意を払って行われています。調査協力への同意後においても、いつでも調査協力者となることを不利益を受けず随時撤回することができます。本研究の内容に関してご意見ご質問などございましたら、気軽に実施者にお尋ねください。

### 【実施者】

埼玉純真短期大学 子ども学科 特任教授 伊藤 道雄 連絡先  
さいたま市教育委員会 特別支援教育室長 内河 水穂子

幼稚園教師の方にお伺いします。

1. あなたの性別をお答えください。(○は1つだけ)

1. 男性      2. 女性      3. その他

2. あなたの年齢をお答えください。(○は1つだけ)

1. 20～29歳      2. 30～39歳      3. 40～49歳      4. 50～59歳      5. 60歳以上

3. あなたの幼稚園教師経験年数(常勤・非常勤期間等すべてを含む)をお答えください。

1. 1～9年      2. 10～19年      3. 20～29年      4. 30年以上



幼稚園教師の研修についての意識調査

4. あなたの今までの経験における研修や学びが、あなたの幼稚園教師の力量を高めるために効果的であったかについて、お聞きします。

「1当てはまる」～「4当てはまらない」の中から、最も当てはまるものに○をしてください。

	1	2	3	4
	当てはまる	どちらか と 言えば 当てはま る	どちらか と 言えば 当てはま らない	当てはま らない
1 大学・短期大学・専門学校の授業は、効果的であった。	1	2	3	4
2 初任者研修（採用1年目の研修）は、効果的であった。	1	2	3	4
3 幼稚園内での研修会は、効果的であった。	1	2	3	4
4 幼稚園内での事例検討会は、効果的であった。	1	2	3	4
5 教師間で相談することは、効果的であった。	1	2	3	4
6 上司に指導助言を受けることは、効果的であった。	1	2	3	4
7 他の教師を指導を見ることは、効果的であった。	1	2	3	4
8 他の幼稚園の指導を参観することは、効果的であった。	1	2	3	4
9 大学教員等の外部講師による研修会は、効果的であった。	1	2	3	4
10 巡回相談・指導の助言を受けることは、効果的であった。	1	2	3	4
11 関係機関との連携やケース会議は、効果的であった。	1	2	3	4
12 外部の研修（幼稚園外の研修）に参加することは、効果的であった。	1	2	3	4
13 書籍等を読むことは、効果的であった。	1	2	3	4
14 保護者と相談することは、効果的であった。	1	2	3	4
15 授業についての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
16 教材研究についての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
17 相談スキルについての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
18 特別支援教育についての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
19 掲示物等教室環境整備についての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
20 小学校との連携についての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
21 指導計画等作成についての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
22 ICTスキルやその活用についての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
23 児童虐待や家庭支援についての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
24 配慮を要する子どもの事例検討は、効果的であった。	1	2	3	4
25 関係機関との連携方法についての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
26 教師のストレスマネジメントについての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
27 国や自治体の動向についての研修は、効果的であった。	1	2	3	4
28 子どもとのコミュニケーションについての研修は、効果的であった。	1	2	3	4

5. あなたの幼稚園教師としての困り感について、お聞きします。  
 「1当てはまる」～「4当てはまらない」の中から、最も当てはまるものに○をしてください。

	1	2	3	4
	当てはまる	どちらか と言えば 当てはま る	どちらか と言えば 当てはま らない	当てはま らない
1 授業をすることに、困り感がある。	1	2	3	4
2 子どもとのコミュニケーションに、困り感がある。	1	2	3	4
3 指導計画等の作成に、困り感がある。	1	2	3	4
4 掲示物等教室環境整備に、困り感がある。	1	2	3	4
5 障害のある子どもの支援に、困り感がある。	1	2	3	4
6 問題行動のある子どもの支援に、困り感がある。	1	2	3	4
7 保護者との相談に、困り感がある。	1	2	3	4
8 保護者に就学相談をすすめることに、困り感がある。	1	2	3	4
9 児童虐待等の支援に、困り感がある。	1	2	3	4
10 小学校との連携に、困り感がある。	1	2	3	4
11 保健・福祉の関係機関の連携に、困り感がある。	1	2	3	4
12 ICTスキルや活用について、困り感がある。	1	2	3	4
13 教師間の連携に、困り感がある。	1	2	3	4
14 仕事上のストレスに、困り感がある。	1	2	3	4
15 新しい幼稚園教育がわからず、困り感がある。	1	2	3	4

幼稚園教師の研修についての意識調査

6. あなたが、**幼稚園教師として必要と考える力**について、お聞きします。  
 「1当てはまる」～「4当てはまらない」の中から、最もあてはまるものに○をしてください。

	1	2	3	4
	当てはまる	どちらか といえば 当てはま る	どちらか といえば 当てはま らない	当てはま らない
1 よい授業をすること	1	2	3	4
2 子どもとコミュニケーションをとること	1	2	3	4
3 指導計画等の作成すること	1	2	3	4
4 掲示物等教室環境整備すること	1	2	3	4
5 障害のある子どもを支援すること	1	2	3	4
6 問題行動のある子どもを支援すること	1	2	3	4
7 保護者と相談すること	1	2	3	4
8 保護者に就学相談をすすめること	1	2	3	4
9 児童虐待等を支援すること	1	2	3	4
10 小学校と連携すること	1	2	3	4
11 保健・福祉の関係機関と連携すること	1	2	3	4
12 ICTスキルや活用すること	1	2	3	4
13 教師間で連携すること	1	2	3	4
14 仕事上のストレスを解消すること	1	2	3	4
15 新しい幼稚園教育を理解すること	1	2	3	4
16 子どもが好きであること	1	2	3	4
17 子どもの個性を大切にすること	1	2	3	4
18 自らの資質能力を高めようとする	1	2	3	4
19 幼稚園教師としての情熱、使命感があること	1	2	3	4
20 幅広い教養があること	1	2	3	4

7. あなたが、幼稚園教師の力量を高めるために、取り組んでみたい研修や学びについて、お聞きします。  
「1当てはまる」～「4当てはまらない」の中から、最もあてはまるものに○をしてください。

	1 当てはまる	2 どちらか と言えば 当てはま る	3 どちらか と言えば 当てはま らない	4 当てはま らない
1 幼稚園内での研修会	1	2	3	4
2 幼稚園内での事例検討会	1	2	3	4
3 教師間で相談すること	1	2	3	4
4 上司に指導助言を受けること	1	2	3	4
5 他の教師を指導を見ること	1	2	3	4
6 他の幼稚園の指導を参観すること	1	2	3	4
7 大学教員等の外部講師による研修会	1	2	3	4
8 巡回相談・指導の助言を受けること	1	2	3	4
9 関係機関との連携やケース会議	1	2	3	4
10 外部の研修（幼稚園外の研修）に参加すること	1	2	3	4
11 書籍等を読むこと	1	2	3	4
12 保護者と相談すること	1	2	3	4
13 授業についての研修	1	2	3	4
14 教材研究についての研修	1	2	3	4
15 相談スキルについての研修	1	2	3	4
16 特別支援教育についての研修	1	2	3	4
17 掲示物等教室環境整備についての研修	1	2	3	4
18 小学校との連携についての研修	1	2	3	4
19 指導計画等作成についての研修	1	2	3	4
20 ICTスキルやその活用についての研修	1	2	3	4
21 児童虐待や家庭支援についての研修	1	2	3	4
22 配慮を要する子どもの事例検討	1	2	3	4
23 関係機関との連携方法についての研修	1	2	3	4
24 教師のストレスマネジメントについての研修	1	2	3	4
25 国や自治体の動向についての研修	1	2	3	4
26 子どもとのコミュニケーションについての研修	1	2	3	4
27 最新の幼稚園教育についての研修	1	2	3	4
28 通信教育で学ぶこと	1	2	3	4
29 YouTube等の動画で学ぶこと	1	2	3	4

質問は、以上です。ご協力ありがとうございました。